

「市長マニフェスト」(平成19～22年度) 関係事業の達成状況について

市長マニフェストの内容	関係事業の達成状況
<p>■効率的な行財政運営、行財政改革をさらに進めます</p>	
<p>市民参画による行財政改革を進め、健全なる財政運営を行い、市民サービスの向上を図ります。</p>	
<p>① 行財政改革の徹底を図るため、行政改革市民委員会による進行の検証・評価・提言を受け、さらなる行政改革を進めます。平成16年度から平成20年度までの削減効果額約56億9千万円をめざします。平成20年度に第2次行政改革推進計画の見直しを行います。</p>	<p>16年度から20年度までの5年間で84の改革項目に取り組んだ結果、削減目標額の51億8,740万円を26億5,303万6千円上回る78億4,043万6千円の削減効果を達成しました。 平成22年3月に「第3次行政改革推進計画」を策定し、22年度から26年度の5年間で40の改革項目に取り組みます。</p>
<p>② 平成22年4月まで68人(6.2%)の職員数を削減します。これは、国に指針で示された4.6%の数値を上回ります。なお、平成19年度から4年間で職員人件費の削減額10億円をめざします。</p>	<p>定員適正化計画で平成22年4月1日の目標数値を1,030人に設定し、正規職員の削減に取り組んだ結果、目標を上回る1,008人を達成しました。 削減額としては、19年度人件費決算(普通会計)は約106億9千万円、22年度決算が約88億4千万円と見込まれ、4年間で約18億5千万円の人件費を削減しました。 平成23年度中に第2次定員適正化計画を策定する予定であり、併行して各課の事務事業の進め方を見直し、効率的な行政運営の確立をめざします。</p>
<p>男女共同参画社会の推進を図るため、活動拠点として男女共同参画センター(仮称)の設置をめざします。</p>	
<p>③ 子育て支援や今後の少子高齢社会に対応するため、女性に関する各種相談、団体、個人の交流及び情報交換の拠点づくりをめざします。</p>	<p>20年度に設置した別府市男女共同参画センター検討委員会から「センターの設置に向けての基本方針」が21年2月に提出されました。21年度にセンター設置に向けた「別府市男女共同参画センター設置準備委員会」を設けて、「基本方針」を基に「男女共同参画センター(仮称)」の必要な機能について検討を行いました。また、21年度はセンター設置に向け、ニューライフプラザ内に「女性の相談ホットライン」を設置しております。 22年度の取組みとしては、23年2月の男女共同参画審議会答申及び市民からの意見を反映させ、22年度中に今後10年間の行政と市民が取り組む基本計画となる湯のまち「べっぴん」第2次男女共同参画プランを公表しました。 なお、「男女共同参画センター(仮称)」については、現在、男女共同参画センター設置準備委員会において、センターの機能(DV等女性の総合相談業務)の拡充の方法、候補地についての協議を行っております。</p>
<p>■産学官と市民との協働のまちづくり更なるONSENツーリズムを推進します</p>	
<p>観光と地域づくりを一体としたONSENツーリズムを推進するため、産学官と市民との協働のまちづくりを進めます。</p>	
<p>① まちづくり活動団体を支援するため泉都別府ツーリズム支援事業及び泉都まちづくりのネットワーク化を進めます。また、地域コミュニティーの活性化につながる地域通貨「泉都」(セント)を継続します。</p>	<p>19年度は、泉都別府ツーリズム支援事業は、34件の応募に対し、21件の支援を行い、支援団体によるまちづくり事業が市内各所で進められました。泉都まちづくりネットワークでは年度末で270団体・個人が参加しており、目標の20団体程度加入を上回りました。また、目標通り、年3回の交流会と年3回のニュースレター発行を実施しました。 地域通貨「泉都」は19年度500人の新規加入を目標としましたが、289人の増加となり、58%の達成となりました。 20年度の取組みとして、「支援事業」では当初21件5,596,000円の支援を行いました。「泉まちネット」では3月末で286団体・個人が参加しており、前年度に比べ16団体・個人増加しました。また、年3回の交流会と年3回のニュースレター発行を実施しました。「泉都」は233名(住基カード45名一般188名)の登録があり、環境課との連携によりリサイクル推進にも相乗的な効果上げています。 21年度は、「支援事業」では16団体がまちづくり活動を行い、「泉まちネット」では交流会を3回開催し、まちづくりリーダーの人材育成等を図るため、講座「泉まちアカデミー」を実施しました。「泉都」の活用促進を図るため、11月と3月に「ドリム泉都キャンペーン」を開催しました。 22年度は、「支援事業」では20事業を選定しました。また、過去3年間に支援した団体等の事後アンケート調査を行った結果、来年度の募集について地域活性化部門の上限額を50万円に引き上げる方向となりました。「泉まちネット」については、年3回の情報交換のための交流会を開催しました。また、交流会におけるコーディネート能力の向上を目的とし、泉まちネットリーダー研修会を開催し、まちづくりのリーダーとしての資質向上を図りました。今後は、各まちづくり団体の事業がスムーズに実施できるよう側面からサポートするとともに交流の場をつくりながら様々な市民のまちづくり活動の連携を強めていきたいと考えております。「泉都」については、本年4月よりICカード型から紙幣型に変更しましたが、利用しやすいとの好評を得ており、多くの市民が参加できるよう情報発信を行います。</p>

②	<p>別府の顔となる中心市街地の活性化を推進し、「人が集まり楽しめる賑わいとふれあいのまちづくり」を進めます。「温泉文化が息づく暮らしのまち」（基本理念）の実現に向け、別府市中心市街地活性化基本計画を内閣総理大臣に申請します。なお、中心市街地活性化事業は、平成23年度までの5年間を目標として進めます。</p>	<p>平成20年7月に基本計画の認定を受け、まちなかの賑わい創出に取り組んでいます。リノベーション事業（platform事業）では4商店街8ヶ所の空き店舗が文化芸術や福祉のスペースに生まれ変わりました。特に21年度に楠銀天街にオープンした三世代交流サロン「わくわく広場」では、近隣住民を中心にさかんな交流が行われています。22年度に整備した（仮称）楠銀ポケットパークとともに、さらに交流の輪が広がることが期待されます。そのほかまちなかの環境整備として実施した梅園通りと流川通りの街灯改修は、夜間の快適な通行に寄与しています。</p> <p>こうした取り組みは民間の活動にもつながっています。3年間で25の店舗が間口改良事業を実施、商店街のイメージアップに貢献しています。また、22年度に行われた商店街連合会主催の歳末大売出し事業には市内313店舗が参加し、中心市街地はもちろん地域の経済活性化が図れました。</p> <p>今後も、温泉や歴史・文化を最大限に活用し、新たな文化を育みながら「訪れてみたい、見てみたい」中心市街地づくりに取り組みます。</p>
③	<p>中心市街地活性化事業やまちづくりなどの予算に充てるため「別府市ONSENツーリズム推進基金」を積み立て活用を図ります。4年間で4億円を積み立て基金の目的に沿った事業に充てます。</p>	<p>「別府市ONSENツーリズム推進基金」の積立てにより、商店街活性化、観光客誘致・受入、海門寺温泉建設などのONSENツーリズム推進を図るための事業を実施いたしました。なお、22年度末の基金残高は約4億5,000万円となっております。</p>
<p>■市民の健康と福祉の向上を進めます</p>		
<p>未来を託す子どもたちに、育ち、育てあう環境整備を進めます。</p>		
①	<p>北部地区に子育て支援拠点施設の建設の目標年度を平成20年度とします。</p>	<p>19年度に内竈保育所隣接の県有地を用地取得し、平成20年10月に建設工事に着手しました。</p> <p>平成21年7月に、北部地区の子育て支援拠点施設として、内竈保育所と北部子育て支援センター「どれみ」の複合施設「すきっぷパーク」がオープンし、子育て支援サービスの充実を図りました。</p>
<p>別府市地域保健センター（仮称）の設置を進めます。</p>		
②	<p>住民の方々に、健康相談、保健指導及び健康診査のほか地域保健に関する事業を行う施設の設置をめざします。</p>	<p>市民の健康づくりの拠点施設となる「別府市保健センター“湯のまちけんこうパーク”」が、平成22年12月、別府公園東側の富士見通り沿いにオープンしました。乳幼児から高齢者までを対象に、健康相談、保健指導、各種健康診査、健康料理教室などの保健センターとしての機能をはじめ、夜間こども診療や休日歯科診療といった診療サービスも行います。</p>
<p>■教育と文化の向上をめざします</p>		
<p>教育環境の整備を進めます。</p>		
①	<p>教育補助者を10名から6名増員し、教育環境の充実を進めます。平成19年度から実施します。</p>	<p>19年度から小学校14名、中学校2名の教員補助者を配置し、全体で10名から16名に増員しました。20年度は、小学校18名、中学校5名の23名に増員しました。また、21年度からは国の緊急雇用事業を活用して、小学校33名、中学校10名の43名に増員し、幼稚園にも教育補助者を6名配置しました。22年度は、小学校33名、中学校11名、幼稚園8名と一層の増員を図りました。</p> <p>教職員と連携しながら、児童生徒一人一人の教育ニーズに応じた支援の充実に取り組んでおります。</p>
②	<p>いじめ対策の一環としてスクールサポーターを3名配置して、小学校5校の巡回支援を進めます。</p>	<p>19年度に臨床心理士の資格を持つスクールサポーターを3名配置し、小学校16校に派遣いたしました。20年度と21年度は、小学校5校に派遣いたしました。22年度は、スクールサポーターを5名に増員して、小学校6校と中学校4校に派遣いたしました。</p> <p>スクールサポーターが校内の巡回や児童生徒との相談活動を行うことで、児童生徒の様子を把握し、教職員と連携していじめやトラブルの早期発見・早期対応に取り組む「いじめを許さない学校づくり」への支援を実施しております。</p>

③	小中学校図書充実を図り、各中学校図書司書7名を平成19年度から配置します。また、校区内の小学校も合わせて対応します。	平成19年度から各中学校を拠点に学校図書館司書を7名配置し、平成20年度から1名増員し8名、平成22年度からさらに3名増員し11名となり、2校に1名を配置し小中学校の学校図書館の充実を図っております。また、これまで3年計画で実施してきた図書電算化や空調機器設置も完了しました。 その結果、学校図書館司書と児童生徒がふれあう時間が多くなり、新しい本の紹介や読み聞かせなどで休み時間に友だちを誘って本を読もうとする子どもたちが増えております。平成22年度では、平成19年度当初と比較し、貸出冊数で6万冊、利用者数で11万5千名増と大きく伸びており、着実に学校図書館の利用が増えております。今後も児童生徒にとって利用しやすい魅力ある学校図書館づくりに取り組みます。
■環境にやさしいまちづくりを進めます		
田園自然環境保全整備を進めます。		
①	棚田百選に選ばれた内成地区の水路、農道整備を進めます。グリーンツーリズムを生かすための野外トイレ・東屋（あすまや）を平成21年度までに計画的に実施します。	平成19年度から21年度までの3年間で本事業（トイレ・東屋の整備・水路の改修〔約5,000m〕・彼岸花の植栽）に取り組み、内成地区の農業用水路及び交流施設が完成いたしました。今後も日本棚田百選に選ばれた内成の棚田を活かした農業の振興やONSENツーリズムの推進を図ります。
美しい景観、緑豊かな空間を生かしたまちづくりを市民と協働で進めます。		
②	緑の役割を「環境保全」「レクリエーション」「防災」「景観」の4つの機能に分類した「緑の基本計画」を市民と協働で緑の保全整備を進めます。市街化区域内における緑の割合を平成17年度約16%を平成37年度約30%に目標を設定します。	19年度は、「緑の基本計画」を推進するため、事業及び計画の実施について関係各課との連絡会議を開催し、短期・中期・長期の実施計画策定に取り組みました。 20年度は、北浜公園のリニューアル、光町西広場及び石垣児童公園等の公園整備を行い、「緑を創る」計画の推進を図りました。 21年度は、別府公園の園路・東門前広場の芝生整備や馬場公園及び竹の内ふれあい公園整備事業に着手した結果、持続性のある緑の割合が17%に増えました。 22年度事業は、別府港石垣地区において、別府市（都市政策課）および大分県の緑化に向けた整備事業が完了し、3万㎡以上の持続性のある緑地が増加し、17.1%に増加しました。 今後も「緑の基本計画」に基づき、緑を守る、緑を創る、緑を育む3つの柱を基本に計画の推進を図ります。
■安心で安全なまちづくりを進めます		
福祉モデル都市と指定されている亀川駅の整備を進めます。		
①	亀川駅のバリアフリー化を進めるため、自由通路の設置、亀川駅東側の広場整備、エレベーターの設置を、平成24年度まで7億2千万円の予算で計画的に実施します。	19年度は、整備事業に係る亀川駅の軌道撤去及び通信・電力設備の移転を実施しました。 20年度は自由通路整備に向け、JR九州との協定を締結し、基礎工事に着手いたしました。また、西側駅前広場の補償工事と用地買収を行いました。 21年度から自由通路工事に取り組み、平成23年2月にJR亀川駅自由通路及び西口広場整備が完了しました。自由通路の完成により、福祉や文教施設などが集中する亀川地区の住民の安全かつ快適な移動環境が整備されました。 平成23年度に東口駅前広場を整備し、亀川駅周辺整備事業は完了します。
市民の安全で安心なまちづくりを進めます。		
②	石垣地区のエリアにおける歩行者の安全性を高めるため、歩道などの整備を平成23年度まで約1億4千万円の予算で計画的に実施します。	19年度は、交差点の改修や歩道の段差改修を行い、20年度は、鶴高通りの歩道段差解消工事や石垣中央通りの一部舗装改修を行いました。 21年度は、石垣地区の市道山田関の江線の車道舗装と各交差点の歩道段差改修、朝見北石垣線（鶴高通り）の歩道段差改修を実施し、23年度まで地区内の市道の舗装、歩道の段差改修を施工し、安全で安心なまちづくりを推進します。 なお、22年度には、あんしん歩行エリア内の住民意識調査を基に、区域内の危険と思われる交差点に、歩行者や自転車への視認性も優れている自発光板を設置し、又薄れた区画線の復旧などを実施しております。
③	吉弘踏切の取り付け道路の整備を行い、歩行者、車両に安全な道路の改良を、平成21年度までに2億1千万円の予算で実施します。	平成22年3月に吉弘踏切が開通し、踏切をはさんで東西の流れがスムーズになりました。また、以前より道路幅と歩道幅も広くなり、歩行者と車が安全に通行できるようにになりました。
■温泉科学博物館の建設をめざします		
①	日本一の温泉地情報の発信基地として、文化・教養・観光の中核施設とするため、温泉科学博物館の建設をめざします。国などの関係機関と協議を進めていきます。	温泉科学博物館の建設につきましては、日本一の湧出量を誇るこの別府に、ぜひ建設を実現し、修学旅行誘致をはじめとした別府観光の更なる再生を図りたいとの思いで検討してきましたが、財政負担や市全体の事業の優先順位などの課題を解消できず、計画策定には至りませんでした。